

この欄は各支部の活動状況、ニュースなどをご紹介します。原稿は支部としてご提供いただきます。

各地 からの たより

栃木県支部だより

駒橋 徹

栃木県というと、最近では宇都宮市の餃子が有名です。老舗の“みんな”“正嗣(まさし)”のほか、新しくいろいろな餃子店ができています。古くからの住人は、この“みんな派”と“正嗣派”に分かれます。私が小・中学生の頃、多くの家庭で夕食メニューにカレーの日があったように、私の生家では餃子の日がありました。週に1回程度です。その日には母親がみんなへ餃子を買に行きました。大学生時代、友人にそのことを話すと“そんなに食べるんだあ”と驚かれることが多かったです。しかし餃子だけでなく、栃木県には日光東照宮や足利学校・足尾銅山跡などの文化遺産、焼き物の町である益子、奥日光や那須高原などの豊かな自然があります。ぜひ訪れてみてください。また、栃木県塩谷町寺島入の国有林が放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場・詳細調査候補地と名指しされ、地元では大きな関心が寄せられています。この地域は、尚仁沢湧水をはじめとする高原山系の多数の水源の中にも立地しており、那珂川水系につながっています。つまり、関東平野が始まる扇状地の上流にあり、表流水や地下水の水源になっています。ここに放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場がつくれ、なんらかの原因によりそこから放射性物質が漏れ出したら、関東平野全体に汚染が広がってしまうのです。

さて、栃木県には20の日精協会員病院があり、年に3回程度の病院長会議、年に2回の栃木県精神医学会、毎月のように行われる製薬会社との共催勉強会など、会員が顔を合わせる機会は多いです。栃木県精神科救急医療システムは、いったんすべての患者を県立岡本台病院へ集め、その後には後方病院へ送るという方法で平成12年4月から実施されています。東北自動車道と北関東横断道路が整備され、車を使えば約1時間で県内のほとんどの場所から県立岡本台病院まで到達できるた

め、効率的とは言えます。精神科救急の医療圏が二次医療圏ごとではないため、精神科救急病棟をもっている会員病院はありません。応急入院指定病院も県立岡本台病院だけとなっています。平成25年4月からは県立岡本台病院内に精神科救急医療相談電話が開設され、それと同時に、これまでの精神科救急システムに加えて手挙げ方式の精神科救急当番が併設されました。そのほか、県内の会員20病院中18病院が精神科療養病棟をもっていること、そのためか平均在院日数が長く、平成25年の統計では、徳島(408.4日)・大分・鹿児島・山口に次いで全国で5番目(384.0日)であること、獨協医科大学病院と自治医科大学附属病院、2つの大学病院があることなどが栃木県の精神科医療の特徴と言えます。

ところで、今年の7月17日、18日と、日本精神科医学会学術教育研修会の薬剤師部門を宇都宮市において開催させていただきました。台風11号が近づいてきていたため、飛行機の欠航などによる不参加が心配されましたが、突然のキャンセルは1名だけで、総勢177名の方にご参加いただきました。メインテーマは『「チーム医療」～精神科薬剤師が求めていること求められること～』としました。これから、チーム医療はますます重要になっていくだろうと考えたからです。皆様方、熱心に聴講され、質問も活発でした。とても有意義な研修会を開催できました。これも他県の会員病院の方々のご協力のおかげと感謝いたします。

なお、栃木県の詳しい精神医療史や宇都宮病院問題などが、日本精神医学風土記―第2部―第4回 栃木県(新井進、臨床精神医学16(5):785-790,1987)に書かれていますので、興味のある方はご一読ください。

(鹿沼病院 理事長・院長)